

第 280 回 世田谷区の渡辺留吉像

筆者：林 久治（記載：2024 年 7 月 3 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は「日本の銅像探偵団」 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張るって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

ネット記事を色々と探索すると、[1\) のサイト/](#) に収録されていない銅像がまだまだ沢山ある。私はそれらの内で、6 月 1 日に板橋区の坂本清像を探索した。[1\) のサイト/](#) に収録されている杉並区のマハトマ・ガンジー像とチャンドラ・ボース像も探索し、これら 3 像の探索記を、[276 回の記事/f](#) に記載した。6 月 8 日には、[1\) のサイト/](#) に収録されていない小平市の親鸞幼像と齋藤素巖像を探索した。[1\) のサイト/](#) に収録されている小平市の平櫛田中像も探索し、これら 3 像の探索記を、[277 回の記事/f](#) に記載した。

6 月 15 日に、私は茅ヶ崎市に行き [1\) のサイト/](#) に未収録の加山雄三像を探索し、その探索記を [278 回の記事/f](#) に記載した。加山像の探索後、私はついでに藤沢市にも行き、[1\) のサイト/](#) に収録されている藤沢市民会館の片山哲像と未収録の秩父宮記念体育館の秩父宮像を探索し、その探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

[1\) のサイト/](#) に未収録の銅像の中に、世田谷署の渡辺留吉警部補像があった。本像は、[3\) のサイト/w](#) などに記載されている。そこで、私は 6 月 22 日に本像を探索した。そのついでに、[1\) のサイト/](#) に収録されている世田谷区の石川右三郎像と大場信續像も探索した。本稿は、渡辺像の探索記である。他の 2 像の探索記は [次回の記事/f](#) 記載する。本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）世田谷署の渡辺留吉警部補像

私は 6 月 22 日の午前、三軒茶屋駅（図 1 上の①）で下車し、世田谷署（図 1 上の②）まで歩いて行った。所要時間は約 10 分であった。三軒茶屋駅と世田谷署との周辺地図を図 1 上に示す。

世田谷署の前庭には、1 基の胸像が設置されていた。その写真を、図 1 下に示す。綺麗な敷石と植栽の中に、大変古い銅像があった。これが、渡辺留吉警部補像であろう。



図1.

上：三軒茶屋駅と世田谷署との周辺地図、

①：三軒茶屋駅

②：世田谷署、

下：世田谷署の前庭に設置された胸像。



次ページの図2上左に、渡辺留吉警部補の胸像を示す。図2上右に、本像背面の制作者サインを示す。それには、「光」と彫られていた。図2下左に、本像台座の碑文を示す。碑文は古くなっていて、可成り読み難くかった。しかし、何とか解読することが出来た。その内容は、本像の概要欄に記載する。

[3\) のサイト/w](#) は、本像を次のように紹介している。

本像は世田谷警察署の正面、自転車置場の傍らにあります。昭和29年の事、非番だったこの警察官は救いを求める声に対応し、強盗と格闘し刺されて殉職されたそうです。そしてこの同僚、署員の方々が追憶され功労を顕彰して建てられたとの事でした。この様な方々のお陰で我々の安全が護られている事に感謝ですね。



図2.

上左：渡辺留吉警部補の胸像、
 上右：本像背面の制作者サイン、
 下左：本像台座の碑文、
 下右：高村光太郎の色紙サイン。



「光」という名前の彫刻家は、有名な高村光太郎（1883年3月13日 - 1956年4月2日）であろうか？光太郎は色紙のサインとして「光」をよく使っている。その例を、図2下右に示す（本図は、[4](#)のサイト/1より借用。）。なお、彼の死亡は1956年なので、本像の制作には辛うじてセーフとなる。私は「いずれにしても、光太郎が制作した銅像のサインを研究してみる必要がある」と思った。

そこで、私は7月3日に上野公園内の「黒田記念館」（「東京国立博物館」の別館）に行って、光太郎作の黒田清輝像を探索した。黒田像の探索記は、[次回の記事](#) [/f](#)に記載する。黒田像のサインも少し不明瞭であったが、「光」と読み取れた。従って、渡辺像の制作者も光太郎でほぼ間違いないであろう。

（3）渡辺像の敷石

図1下に示すように、渡辺像の周辺には立派な敷石と植栽があった。そこに、礎石建設の経緯を記載した説明文があった。その写真を図3に示す。本文より、渡辺巡査殉職の経緯が簡潔に説明されている。本礎石は、彼の殉職の30年後に建設されたようで、現在でも大変綺麗に維持されている。世田谷署員の彼に対する追慕が長く残っている事が分かった。



図3. 渡邊留吉警部補胸像の周囲にある礎石を建設した時の説明文

（4）渡辺留吉氏の略歴と除幕式

渡辺像の周辺には、彼の略歴などの資料が無かった。従って、彼の生年や出身地は不明であった。また、本像除幕式の日時も不明であった。そこで、私は7月2日に自宅近所にある練馬区立大泉図書館に行き、事件当時の新聞記事を調査した。本館の女性職員の方が古い新聞記事を親切に検索して下さり、本殺人事件と本像除幕式の記事を迅速に発見して下さいました。感謝、感謝である。

また、除幕式の様子は以下の通りであった。

昨年9月18日に殉職した世田谷署渡辺留吉警部補の銅像が完成し、1955年6月25日同署屋上で除幕式が行われた。式には、堀切都公安委員長、江口警視総監、長島世田谷区長をはじめ、初江未亡人などの遺族が参列。除幕の綱を引いたのは、姪のまさよちゃん。

しかし、本記事には、本像制作者の名前はなかった。

以上の資料などにより、渡邊像の概要は次の通りである。

渡邊留吉警部補胸像

設置場所：東京都世田谷区三軒茶屋2-4-4 世田谷署前庭

制作者：高村光太郎（1883年3月13日 - 1956年4月2日）？

除幕式：1955年6月25日 世田谷署屋上にて

設置経緯：渡邊留吉巡査は、1954年9月18日午後7時10分ごろ、台風14号の荒れ狂う中、非番日に帰宅途中、弦巻町二丁目六番地先の路上にさしかかった際、刃物を持った自動車強盗犯人に脅迫された運転手の救いを求める声を聞きつけ、その場に駆けつけ犯人と格闘中凶刃に倒れ、壮烈な殉職を遂げた。渡邊留吉警部補（1917or16-1954.9.18）は事件当日27歳で、静岡県榛原郡中川根村（現・中川根町）の出身。1952年7月に巡査を拝命し、1954年8月2日に結婚されていた。殉職後、2階級特進して警部補に昇進。

本像台座正面に以下の碑文あり。

故警視廳警部補渡邊留吉君は性剛毅にして寡言力行克く職務に精励し将来を嘱目されていたが偶々昭和二十九年九月十八日夜咫尺を辨せぬ暴風雨の中を非番外出から歸途弦巻町の路上にて一自動車より強盗と連呼する悲鳴を聴き身を挺して賊を組み伏せ逮捕する前敵は窮せるを見凶刃を揮って君の胸部を刺す君は屈せず口しても尚も格闘遂に力竭れて尊き生命を職に殉じたその果敢にして万撓の精神は警察官の鑑と言うべきである噫この凶難によって少壯有為の士を喪う尚も遺憾の極みである

功を以って將に勲八等に叙せられ白色桐葉章警察功勞章を贈られた

茲に胸像を造り以て永く其の功を讃う

昭和三十年六月 警視総監 江口見登留

なお、「咫尺を弁せず」の意味は次の通りである。

視界がきかず、ごく近くのものも見分けが付かないこと。「咫尺（しせき）」は距離が非常に近いこと、「弁」は見分けるという意。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://map.yahoo.co.jp/v2/place/PcqH2lXzAiA/review>
- 4) のサイト：<https://aucfree.com/items/f317461741>